

気候変動に適応するために、 あなたなら未来の京都をどう変える？

市民協働ファシリテーター養成研修 市民協働セッション



SLOW INNOVATION

Changing systems step by step

「気候変動に適応するために、あなたなら未来の京都をどう変える？」

- 開催日時：2021年11月24日（水）13:30～15:30
- 開催場所：オンライン（ZOOMミーティング）
- 参加者：11名
 - 一般参加（市民・民間企業ゲスト）：4名
 - 京都市職員（市民協働ファシリテーター研修受講生）：7名

ワークショップのねらい

開催背景

- 近年、地球温暖化に伴う気候変動により、酷暑、激甚災害、四季や動植物の変化など、大きな影響が表れつつある。
- 気候変動への対策には、温室効果ガスの排出を減らす「緩和策」と、緩和策をどんなに進めても起こってしまう影響に対して対応する「適応策」を両輪で進める必要があるが、**適応策についてはなかなか知られていない。**
- また、気候変動による影響は地域によって異なるため、各地域や分野でどのような影響が出ているのかを把握し、**京都の地域特性に応じた適応策を検討**することが必要である。

本ワークショップにおける問いとゴール

Q 気候変動によって京都にどのようなことが起きているのか？

⇒ 適応策や気候変動について、**自分ごととして理解を深める。**

Q これからの京都を見据えたユニークな適応策とは？

それによって京都のまちや他の地域にどんな変化を起こせるか？

⇒ テーマ所管課（地球温暖化対策室）を驚かせる**具体的な適応策を提案する。**

ワークショップのプロセス

1. 問いの共有

- ・ファシリテーターからワークショップの問いとゴール、進め方、ルールの説明。
- ・テーマ所管課から想いの共有と、適応策や気候変動の影響について説明。

2. 2人組での対話（ストーリーテリング）4分間（2分×2）

- ・「テーマ所管課からの説明の中で、初めて知ったことや思ったこと」というテーマで、2人組で対話。

3. グループでの対話（ワールドカフェ）6分×2ラウンド

- ・「気候変動によって京都にどのようなことが起きているか？」というテーマで、途中でメンバーを入れ替えながら、小グループで対話。

4. グループでの対話（ブレインストーミング）

- ・「**適応策のアイデアをたくさん出し合おう！**」というテーマで、小グループで対話。

5. チームづくり（マグネットテーブル）

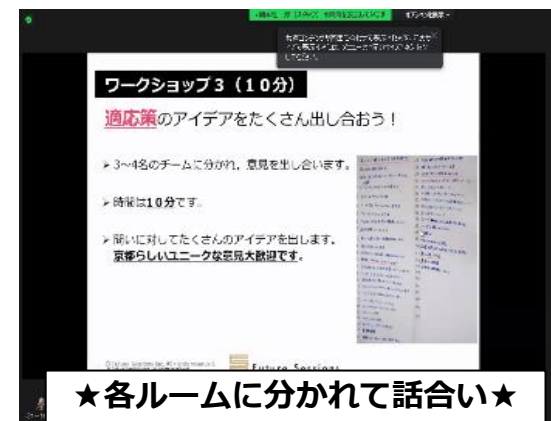
- ・「**あなたが提案するこれからの京都を見据えたユニークな適応策とは？**」というテーマについて、各自がチャットに自分の考えを記述。その考えをファシリテーターがいくつかのグループに分類し、参加者が参加するグループを決める。

6. アウトプット作成（クックプロトタイピング）

- ・「**選んだ適応策によって京都の町やほかの地域にどんな変化を起こせるか？**」というテーマで、未来の京都の様子をグループごとに検討。

7. 発表





- ・各グループのアウトプットの発表



アウトプットサマリー (1/3)

気候変動によって

京都にどのようなことが起きているか？

- 祭・行事  行事が暦とずれて売上にも悪影響
・酷暑による熱中症の増加
・春と秋が短く実感しにくい
- 食  季節の境界や旬が分からなくなっている
・農作物や京野菜の収穫に悪影響
・冬にソフトクリームの需要が増加
・今まで京都になかったものが食べられる【将来】
- 観光  桜や紅葉の時期、生態系の変化
・雪が積もらなくなり、ウィンタースポーツの減少
・歴史的建造物への被害の増加【将来】
・観光客が来やすくなる【将来】
- その他  洪水や台風等の災害の増加、激甚化
・新しい病気の流行【将来】

適応策のアイデア

- ・祭や行事の時期変更、延長
- ・熱吸収可能な道路素材、住まいの断熱化、涼める場所の拡大
- ・都市の環境整備を行い、「京都モデル」として海外に売り込む
- ・作物の栽培技術の進歩
- ・気候変動により新しく作れるようになった作物や料理を新名物としてブランド化
- ・大量発生した生物（鹿・バッタ等）の食材化
- ・意匠を残した耐震改修
- ・人工降雪で積雪の日を作る
- ・シーズンオフの時期の乗車券の割引
- ・気候の変化に合わせた観光誘致や情報発信
- ・巨大防壁、災害の少ない場所に移転、ハザードマップの見直し
- ・時差出勤の定着

未来の京都を見据えたユニークな適応策

- ・環境問題に適応した京都モデルの暮らし方の海外展開
- ・街中に緑を増やし、新しい景観イメージの創造
- ・納涼床の面白い展開や、昆虫食に匹敵する未来の京料理
- ・新しく作れる作物のブランディング
- ・気候変動で増加する有害生物の有効活用
- ・観光客が撮影した観光地等をコンテスト形式で集め、災害で破壊された惨状とのギャップに寄付が集まる仕組みづくり
- ・緑のカーテンなど人にも環境にも優しい家を増やす
- ・春夏秋冬に応じた川床企画
- ・気候に合わせた新たな京野菜・京果物・京料理
- ・京都に今までなかった食材の発掘、新たな旬の提案
- ・ジビエグルメを京都名物にする

アウトプットサマリー (2/3)

これからの京都を見据えたユニークな適応策による未来の京都

気候に合わせた新たな京都名物

影響 : 気候変動によって、栽培できる野菜や果物の変化、有害鳥獣の増加が生じる…。

適応策 : 新たに栽培できるようになった野菜や果物、増えた有害鳥獣を活用して新たな京都名物を開発
→ 家庭では新たなレシピが広まり、観光地では新たな食の魅力を発信して観光客を誘致している

《京都名物の具体例》

- ・ 新たな京野菜・果物を使用した京料理、おぼんざい、和菓子・スイーツ、御漬物などのお土産
- ・ 鹿肉を用いた料理

《普及の方法》

レシピの公募と発信、観光地での販売、給食で採用等



適応策のモデル都市

影響 : 夏の酷暑等、暮らしへの影響が一段と厳しくなる…。

適応策 : 都市における暮らし全般に、海外を含めた先進事例や最先端の技術を取り入れる
→ さまざまな適応策が集積したモデル都市として注目を集めている

《取組みの具体例》

- ・ 緑を乗せたタクシー
- ・ 暮らしのモデルのパッケージ化 (パッシブハウス等)
- ・ 夏の酷暑や冬の底冷えに対応してきた京町屋に断熱技術等を採用し、「新たな京町屋」を開発

《普及の方法》

行政主導で都市レベルでの計画を行い、民間企業との協力のもとで具体化



アウトプットサマリー (3/3)

未来の京都のありたい姿

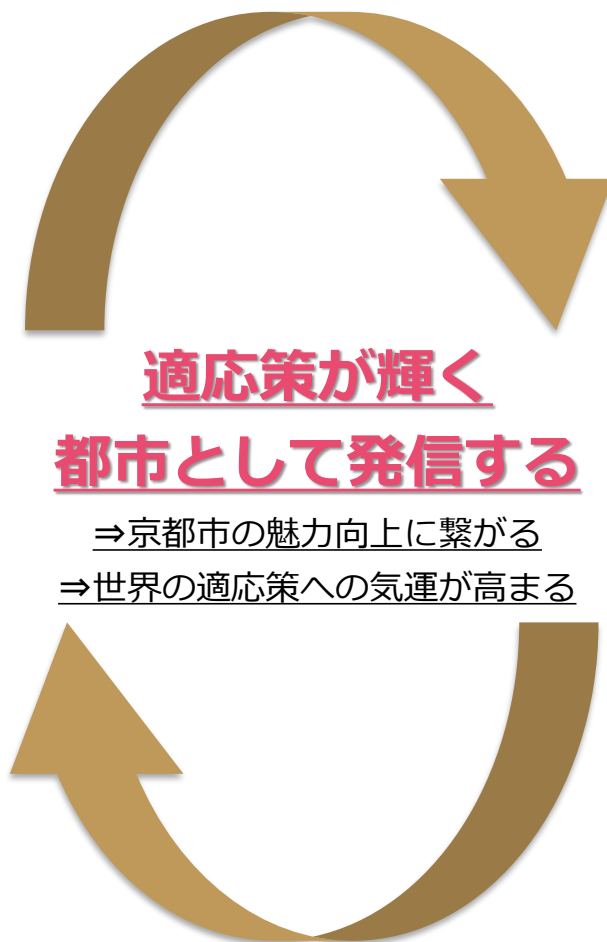
気候変動をポジティブに捉え、適応策が輝くモデル都市として発信する

気候変動を逆手に 取ったアイデアの創出

気候変動というピンチをチャンスに！
行政と市民・企業が協働し、斬新なアイデアを
生み出す

《具体策》

- ・ 気候の変化に合わせた商品開発を行い、様々な分野と連携してプロモーションすることで、新たな食文化や観光面の魅力を創出する。
- ・ 京都の伝統的な暮らしや文化と技術を融合させた「新しいまち」づくりを進める。



適応策が輝く 都市として発信する

- ⇒ 京都市の魅力向上に繋がる
- ⇒ 世界の適応策への気運が高まる

適応策のモデル都市化 に向けた仕組みづくり

京都のまちを適応策の見本市に！
様々な適応策を京都に集積し洗練させ、
モデル都市化するための仕組みを整備

《具体策》

- ・ 様々な適応策やそれに関わる人、モノ、技術を京都に集める
- ・ 集まった適応策を京都のまちで実証・実験するサポートを行う（公共施設を活用した検証を受け入れる等）